

文化財担当者研修のすすめ

～よりよい文化財行政のために



写真：在りし日の旧研修棟と
現在の研究所仮庁舎多目的利用室
(平成 30 年春開庁をめぐりして新庁舎を建設中)



平成29年度 文化財担当者研修課程一覧(予定)

区分	専 門 研 修													
課 程	建築遺構調査	建造物保存	出土品管理	災害復旧	発掘調査	文化的景観	三次元計測	有機質遺物	古代・中近世遺物	文化財の記録	文化財調査記録	報告書編纂	報告書デジタル化	脆弱遺物の保存
副 題	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	出土品の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する	建築遺構や出土文化財建造物の管理・保存活用に関する活用・展示環境を理解する
実施期日	6月12日～6月16日	6月19日～6月23日	7月10日～7月14日	7月24日～7月28日	9月12日～9月15日	9月20日～9月22日	9月25日～9月29日	10月10日～10月18日	11月13日～11月17日	11月27日～12月7日	12月14日～12月21日	1月15日～1月19日	2月13日～2月16日	
定 員	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名
対 象	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
内 容	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関する必要知識や発掘方法などについて研修	文化財建造物の保護行政をおこなうための文化財建造物に関する基礎、および文化財建造物の保存・活用に関する基礎的知識の習得を目的とする研修	発掘調査報告書の公表に求められる、出土品の有効かつ効率的な管理から活用・展示に関する基礎的知識の習得を目的とする研修	地震、津波、火災などの災害痕跡を調査する際の専門的知識と調査方法の習得を目的とする研修	遺跡・遺物の正確な記録とその保存方法について、GISやデータベースの利用、観測データの公開などに関する知識の習得を目的とする研修	文化的景観の活用に関する必要知識の習得を目的とする研修	三次元計測の活用に関する必要知識の習得を目的とする研修	出土有機質遺物の調査・保存方法に関する必要知識の習得を目的とする研修	古代・中近世遺物の調査・保存方法に関する必要知識の習得を目的とする研修	文化財の記録・調査・保存方法に関する必要知識の習得を目的とする研修	文化財調査記録の活用に関する必要知識の習得を目的とする研修	報告書編纂に関する必要知識の習得を目的とする研修	報告書デジタル化に関する必要知識の習得を目的とする研修	脆弱遺物の保存・管理、修復、展示に関する必要知識の習得を目的とする研修
申込締切予定日	平成29年4月28日(金)	平成29年5月2日(火)	平成29年5月26日(金)	平成29年6月9日(金)	平成29年7月28日(金)	平成29年8月4日(金)	平成29年8月10日(木)	平成29年8月25日(金)	平成29年9月29日(金)	平成29年10月13日(金)	平成29年10月24日(火)	平成29年10月31日(火)	平成29年12月1日(金)	平成29年12月27日(水)

*1 各研修はリニューアルが図られております。
*2 募集は各都府県及び政令指定都市教育委員会を通じて行われます。
*3 研修参加決定通知は研修開始日の約1ヶ月前に通知の予定です。
*4 文化財写真実習・報告書編纂基礎講座・報告書デジタル作成講座は、続けて受講することができます。

研修案内 URL <http://www.nabunken.go.jp/fukyu/kensyu.html>



SKETCH BOOK



建設の進む新庁舎(平成30年4月完成予定)

特別史跡平城宮跡のかたわらに所在する奈良文化財研究所(通称:奈文研)は、国立博物館、東京文化財研究所とともに独立行政法人国立文化財機構を構成する、日本を代表する文化財関連の調査研究機関です。

昭和27年に設立された奈良国立文化財研究所を前身とし、「文化財行政に資する研究をおこなう」をモットーに、奈良県下の恵まれた歴史的環境に包まれながら、考古学、保存科学や年輪年代学などの考古科学、建造物、文化的景観、計測修景など、不動産文化財を中心とする文化財を対象とした最先端の調査と研究をおこなっています。

文化財担当者研修



昭和41年から文化財保護委員会(現・文化庁)と共催していた発掘調査研修がはじまりです。昭和49年からは奈文研に設置された埋蔵文化財センターが引き継いで開催してきました。現在は、奈文研の研究分野の広がり、行政が対応すべき文化財の多様化にともなって、埋蔵文化財ばかりでなく、古文書、災害痕跡、文化的景観などの研修もおこなう「文化財担当者研修」として実施しています。昭和49年から平成28年までの累計受講者数は9312人。昨年度の受講者は167人で、100%の方々から、「有意義だった」、「役に立った」との御回答を受けています。

この研修は、文化庁とも連携しながら、全国の地方公共団体の文化財担当職員を受け入れ、最先端の研究にもとづく講義と実習を通じて受講者のスキルアップを図り、各地の文化財行政の足腰を強め、その一層の向上と充実につなげることを企図しています。また、開講課程や内容は随時変更し、その時々各地の地方公共団体が抱える課題に対応させています。講師は、奈文研の研究職員のほか、各分野での第一人者、時には文化庁文化財調査官が務めます。

研修後のアフターケアも万全で、課題や疑問に対しては、研修担当者・担当室が親身に対応いたします。また、同じ研修を受講したことをきっかけに、奈文研や同様の課題を抱える全国の担当職員との間にネットワークが生まれ、これを通じて、問題意識が共有され、課題の解消のヒントやアドバイス、ノウハウを得られることもしばしば。これも研修受講のメリットの1つです。



課程紹介

報告書編集基礎課程 文化財調査研究にとって報告書をはじめとする出版物は、広報普及や記録保存など幅広い目的を持って作成されるものです。出版物の制作は編集や印刷などの基礎知識が必要になります。こうした文化財出版物に必要なセオリーや印刷の知識などを受講できる課程が報告書編集基礎課程です。

本課程では文化財行政上必要な発掘調査報告書から、自治体が抱える各種文化遺産の調査報告など様々な出版物の事例紹介や編集知識の習得、近年デジタル化され変化のめまぐるしい印刷業界の現状と基礎知識、印刷工場見学などを通じて編集から印刷仕上がりまでの流れを習得する課程としています。



報告書編集基礎課程 図版作成の基礎

報告書デジタル作成課程 現在、出版物のほとんどはデジタルの工程を経て世に送り出されています。文化財出版物においてもその傾向は同じで、記述・図・写真など各コンテンツが徐々にデジタル化され、編集作業もデジタル化。さらに費用の面から内製化される例も見られます。

内製化するためにはこれまで印刷会社での作業であった部分を、担当者自身が実施することになります。そのためには必要な基礎知識や実際のテクニック、ソフトウェアの取り扱いなどの専門知識が必要です。本課程では実習を中心として参加者が実際にレイアウト作業をおこない、PC上でのレイアウトソフトを使用した印刷原稿の作成までの流れを習得する課程として実施しています。



報告書デジタル作成課程 デジタル写真撮影実習

受講生の声



平成29年度出土品管理・活用課程のみなさん

管理を考える時に不可欠な補助金の使い方や根拠法令をしっかりと教えてもらえた。

たくさんのヒント、気づきをもらうことができました。

事例紹介とともにたくさんのアイデアが込められた先進事例を知ることができて、非常に有意義だった。

